

本日の授業者

アクティブ・ラーニング
授業デザインシート

西条東中学校

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

1年	数学科	単元名	4章 変化と対応 2節 比例 2 座標	6/17	西条東学校 久保 拓也
----	-----	-----	------------------------	------	----------------

★ 単元のねらい

具体的な事象の中にあるともなって変化する2つの数量に着目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して理解を深め、利用できるようにする。

☆ 本時のねらい

- 座標を用いることで、平面上の点が一意的に表せるという良さに気付くことができる。
- 座標の意味を理解し、点を座標平面上に表したり、点の座標を読み取ったりすることができる。

○ 「学びあい学習」におけるICT活用のポイント

導入の場面で、電子黒板に飛行機、映画館、碁盤、地図などの写真を提示し、本時の学習へと繋げていく。また、タブレットを用いて、意見をまとめたり、比較したりすることで、生徒の学びをより深めるだけでなく、適切な評価ができるようにする。

● 「学びあい学習」のポイント

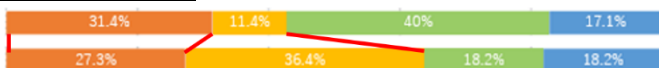
ジャンプの課題として、座標で絵をかく活動に取り組む。グループで相談して解いたり、自分で作った問題を出し合ったりすることで、学びをより深めたい。

◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）

（第1学年 目標項目）

②主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している。」
 ⑮創造力「調べたことを、タブレットやコンピュータを使ってまとめたり、発表したりしている。」
 ⑳解決力「グループやクラスの話合いでは、自分の考えや意見を積極的に出している。」

これまでの授業で、理由を説明させる活動や、理由をタブレットにまとめる活動を積極的に取り入れてきたが、毎回の授業後アンケートにおいて、実際に「理由を書いた」と答えている生徒は約38%と低く、理由を説明する力については課題が残る。②本時では、理由をタブレットに「まとめる」のではなく、まず理由を「発表する」ことに目標を設定する。また下図のように、グループやクラスの話合いにおいて全体的に意見は出せるようになってきているが、上位層が減少している。そのため、ジャンプの課題に「座標で絵を描く」という生徒の興味・関心を引きやすい内容を取り入れ、②発表意欲を高めた。



展開	時間	学習活動の流れ・予想される子供の反応（☆）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	8分	1 クイズを通して、位置を正確に伝えることの難しさを知る。 ・ 座席で位置を正確に伝える活動を通して、斜めの位置を表現することの難しさに気付く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習問題 ・ 位置を正確に表現する方法はないだろうか。 ・ その方法を用いて位置を決めたり、読み取ったりできるだろうか。 </div>	○ 電子黒板に座席表のクイズを提示し、取り組むことで、位置を正確に表現する難しさに気付く、問題意識を高めることができたか。（観察）
追究	30分	2 身の回りに正確に位置を表現している例がないか探す。 ・ タブレットで2枚の絵（カード）を見て、⑮ <u>正確に位置を表現している例を見つけ、○をつける。</u> また、② <u>なぜそう思うのか、理由も述べる。</u> ☆ 映画館、飛行機、野球場、世界地図、将棋など。	☆ 理由を言わせることで、クラス全体で座標の考え方を利用すれば位置を正確に表現できることを共有する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの経験から、映画館などでは、縦と横に分けて位置を表していることに気付く。 ・ 縦と横に分けて位置を表現することで、正確に伝わることに気付く。 <p>3 座標を導入し、点を座標平面上にかき入れたり、座標を読み取ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座標の意味を説明し、練習問題に取り組む。 (点を示す問題、座標を読み取る問題) <p>4 ジャンプの課題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(ジャンプの課題) 座標絵の問題を作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>④タブレットで座標の絵の問題を作り、解き合う。</u> (手順) ① ワークシートに点をつないだ絵を描く。 ② 座標を読み取り記入する。 ③ タブレットで geogebra に座標を打ち込み、問題が正しいか確認する。 ④ ③で作成した画面のスクリーンショットを撮り、そのカードを提出する。 ⑤ 問題を解き合う。 	<p>☆ ワークシートにまとめさせることで、用語や仕組みを確実に理解させる。</p> <p>○ 座標絵の問題を適切に作成することができたか。(提出ファイル)</p> <p>● いろいろな問題を班員と協力して解くことができたか。(観察)</p>
<p>解決</p>	<p>7分</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゴール 座標を用いて、点を座標平面上に表したり、点の座標を読み取ったりすることができる。</p> </div>	<p>☆ 座標の考えを適切に使えるようになったか。(提出ファイル、ノート・ワークシート等)</p>

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

2年	社会科	単元名	中国・四国地方	4/5	西条東中学校 伊藤 優貴
----	-----	-----	---------	-----	-----------------

<p>★ 単元のねらい</p> <p>中国・四国地方の地域的特色について、都市と農村の変化を人々の生活や産業、交通網の発展などと関連付けて考察できる。</p>
<p>☆ 本時のねらい</p> <p>中国・四国地方の交通網の発展による人々への影響について地域にとっての利点と課題の両面から考え、課題に対する改善策を理由付けして説明できる。</p>
<p>○ 「学びあい学習」におけるICT活用のポイント</p> <p>本州四国連絡橋の開通による利点と課題について、タブレットを使って自分の考えや意見を出す。また、実際に行われている課題に対する取り組みを考え、説明する。</p>
<p>● 「学びあい学習」のポイント</p> <p>※ ジャンプの課題を設定している場合は、課題内容とポイントを記入する。</p>
<p>◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）</p> <p>・ 2年1組のクラスカルテを見ると、学習方法の見直しが必要な生徒が全体の3分の1程度いることが分かった。そのため、授業を通して適切な学習方法を身に付けさせることが必要であると感じた。そこで、ムーブノートやオクリンクを活用することで、自分の意見を理由付けして考えとともに、積極的に他の人の意見を自分の意見に取り入れようとするのができ、学習方法を改善するきっかけとなるのではないかと考えた。</p> <p>生徒アンケート項目一覧を4月と比較すると、目標項目21「グループやクラスの話し合いでは、自分の考えや意見を積極的に出している」が全体で10パーセント程度上昇していることが分かった。タブレットを活用してねらいを明確にした授業を繰り返すことで、確実に数値が上昇するということを実感できた。本時ではそれらの結果を踏まえ、グループワークでタブレットを活用し、一人一人が積極的に考えを出すことを念頭にし、かつ考えに明確な理由付けを行うことを重要視する。</p>

展開	時間	学習活動の流れ・予想される生徒の反応（☆）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	20分	<p>1 本州四国連絡橋について、名称や特徴などを確認し、自分たちの身近にある交通路であることを実感する。（一斉）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題 「本州四国連絡橋の開通は、地方の人々の生活にどのような影響を与えただろうか。」</p> </div> <p>2 本州四国連絡橋開通の利点を個人で考えて意見を挙げる。（個人→全体） ☆ 車で都市（広島など）に行ける。 移動に時間がかからない。 物資を運べる。</p> <p>3 香川県の人口推移のグラフから本州四国連絡橋による人口減少について考える。（個人→全体）</p>	<p>○ 本州四国連絡橋を再認識するために電子黒板に画像を提示し視覚的に分かりやすく確認作業を行う。</p> <p>☆ 本州四国連絡橋の利点を挙げる際に、理由を付けて説明することができているか。</p> <p>○ 電子黒板を活用して、香川県の人口の推移を分かりやすく示す。</p>

追 究	20 分	<p>4 人口減少にともなう課題は何か、考える。(グループ)</p> <p>☆ 働く人が減って、産業が衰退する。 少子高齢化が進む。 公共交通機関が撤退する。</p> <p>5 徳島県神山町について取り上げ、この町が人口を増加させるために取り組んでいることを考える。(ムーブノート、電子黒板)</p> <p>☆ 観光名所をつくった。 働きやすい環境をつくった。 子育て支援を充実させた。</p>	<p>○ 便利さや利点だけではなく課題が多くあることを理解させ、解決意欲を高める。また、ストロー現象と関連付けて考えさせる。</p> <p>☆ 利点と課題の両面を理解した上で、地方の問題について一人一人が考えることができるか。</p>
解 決	10 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ゴール</p> <p>本州四国連絡橋開通による影響を、利点と課題の両面から見だし、地方の人々がどのような取り組みをしているか考え、説明できる。</p> </div> <p>8 西条市の取り組みについて知る。 ・LOVESAIJOの取り組みについて触れる。</p>	<p>○ 最後に地元の実際の取り組みについて触れることで、地元の人々の努力を知る。</p>

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

3年	学級 活動	題材名 差別のない社会をめざして	1/1	西条東中学校 和田 眞徳
----	----------	---------------------	-----	-----------------

★ 題材のねらい
最高学年として、差別をなくすためにできることを考える。
☆ 本時のねらい
文化祭人権啓発劇の有志の発表に共感し、差別を解消するための活動について話し合い、これから自分が行動すべき内容について理解する。
○ 「学びあい学習」におけるICT活用のポイント
ムーブノートで意見を共有する。
● 「学びあい学習」のポイント
班員と意見を交わしながら、今の自分たちで差別を解消するためにできることを考える。
◇ カルテからの目標設定（ <u>関連する部分に下線</u> ）
㊦協働力「グループやクラスのいろいろな意見を生かして考えを深めたり広げたりしている。」 ㊧創造力「調べたことを、タブレットやコンピュータを使ってまとめたり、発表したりしている。」 これまで、差別の現実に深く学ぶことを大切に学習を重ね、様々な差別を解消するため、そして自分を変えるために活動をしてきた。本時では、生徒が中学校3年間で学んできたことを発表する文化祭の人権啓発劇を終えて、今一度、 <u>級友や地域の思いなど、様々な意見を取り入れながら、差別を解消するために、今までよりも一歩前進した方法を考え、これから卒業までの期間に自分にできることを発表する。</u>

展開	時間	学習活動の流れ・予想される生徒の反応（☆）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	10分	1 映像を見ることで、人権啓発劇の振り返りを行い中間の思いに共感する。 2 劇の最後の場面で、キャストが発した「自分たちにできること、学校に残せること」というセリフの答えを考える。（1回目個人） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習問題 ※ 今後、どのような活動が差別の解消につながるのか？ </div>	○ 電子黒板に人権啓発劇の映像を提示し、学習問題解決への意欲を高める。
追究	30分	3 地域の人、東中に関わった人の差別解消への思いを聞く。（DVD） 4 <u>卒業を控えた自分にとって、差別をなくしていくためにできることを考え、その気持ちを伝える。（2回目班協議）</u> ・ <u>卒業までに、再度、人権集会を開く。</u> ・ <u>卒業までに西条市の研修会に参加する。</u> ・ <u>東中人権宣言をつくる。</u> ・ <u>来年度、入学予定の小学生に自分たちの思いを伝える。</u>	○ 地域の人や東中に関わった人の思いを聞くことで、更に差別解消への意欲を高める。 ◎ 個人の考えをもとに班内で意見を交換しながら、ムーブノートで意見を共有する。
解決	10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ゴール ※ 一人一人の生徒の差別解消への意欲を高め、卒業までに自分にできる行動について発表できる。 </div> 5 教師の話を聞く。	

★ 成果と課題及び改善点

※ ワークシートなどの授業資料。板書、電子黒板、ICT 活用の様子、「学びあい学習」の様子などの写真を添える。

A4 2枚まで